

## ユネスコ「UNDESD 国際実施計画の枠組み(案)」に対する提言書

「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議 (ESD-J)

運営委員長 阿部 治

ESD-J は、DESD の推進における UNESCO のイニシアティブに対して、敬意を表します。さて、日本においては、多くの団体や個人が ESD に関心を抱き、取組をすすめています。今回の DESD の発足は、私たち日本の NGO が DESD を WSSD に提案するよう日本政府に働きかけたことが、直接的な契機となったものです。そして、DESD に賛同する日本国内の団体と個人が、DESD を推進していくために設立した組織が ESD-J です。ESD-J は、現在、50 以上の全国的・地域的団体と多数の個人会員によって構成されており、環境、開発、ジェンダー、人権、平和など ESD にかかわる全ての領域をカバーしています。ESD-J は日本政府や企業セクターなどとの連携のもと、日本における DESD のプラットフォームとして、DESD の成功のために大きな貢献をする意思をもっています。私たちは、DESD を成功させるためには、NGO などの貢献が不可欠であると確信しています。今回、UNESCO の作成した、DESD のフレームワーク(ドラフト)に対して、意見を述べる機会を得られたことは、私たちにとって大きな喜びです。ドラフト案について検討した結果、ESD-J としては、以下の項目をフレームワークに盛り込むことを要望します。

### 1. ESD の目標・指標の提示

<コメント>

ESD を通して SD を達成するための ESD の基本的な目標、指標を示して下さい。ドラフトでも指摘されていますが、ESD における MDGs (ミレニアム開発目標) の視点の重要性を鑑み、MDGs の達成を ESD で取り組むべき最優先事項の一つとして強調して下さい。また、MDGs を ESD における教育目標に含めて下さい。

<ドラフトの主な関係箇所>

#### Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Meeting Millennium Development Goals
- ・ Linking DESD to other International Educational Priorities

#### Section 2: A Partnership Approach to the DESD

- ・ Principles for Developing Partnerships
- ・ Vision

### 2. 平和及び「平和の文化」の構築の強調

<コメント>

現在、国際社会はテロや戦争に最大の関心を持っており、ESD は本来、こうしたテロや戦争をなくすための強力なツールとなるべきです。また、平和とは、直接的暴力のない状

態であるだけでなく、貧困などの構造的暴力の克服も不可欠であることが認知される必要があります。SD のベースは平和であり、「平和の文化」を築くことをもっと強調して下さい。なお、平和の文化の構築では、ジェンダーの視点が特に重要であることを強調して下さい。なぜならば、ジェンダーの視点はすべての問題に通じる横断的かつ根幹的な問題であるからです。

< ドラフトの主な関係箇所 >

#### Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Key Themes in Education for Sustainable Development
- ・ Gender Equality
  - ・ Intercultural Understanding and Peace

#### 3 . 地球市民への認知のためのキャンペーンの実施

< コメント >

マスメディアを活用し、ESD を地球市民に広く認知してもらうための ESD 宣言署名などのキャンペーンを、EFA、MDGs、UNLD ともリンクさせて行って下さい。

< ドラフトの主な関係箇所 >

#### Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Linking DESD to other International Educational Priorities
- ・ Key Themes in Education for Sustainable Development

#### Section 2: A Partnership Approach to the DESD

- ・ Communication and Advocacy

#### 4 . 情報公開と参画の権利保障

< コメント >

国連並びに UNESCO を含む関係機関、そして各国政府などの DESD を主導・実施する立場にあるすべての主体は、DESD にかかる情報を徹底的に公開し、DESD の計画への立案・決定過程(目標、手段、過程、評価、制度)・実施へ誰もが参加できることを公式化し、意思決定プロセスへの万人の参画の権利を保障して下さい。

< ドラフトの主な関係箇所 >

#### Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Education: Making the Abstract Real
- ・ The Four Domains of Education for Sustainable Development

#### Section 2: A Partnership Approach to the DESD

- ・ Partners
- ・ Principles for Developing Partnerships
  - ・ Vision
  - ・ Demonstration activities

- ・ Community-based Processes
- ・ National, Provincial and Local Government Processes

## 5 . サポート体制並びにフィードバック体制の整備

### <コメント>

EFA、UNLD、ESD の世界的な監視体制により、活動状況、問題点、課題、フィードバック等をモニタリングすると同時に、ESD の普及をより効果的、効率的に進め改善するためのサポート体制並びにフィードバック体制を整えて下さい。

### <ドラフトの主な関係箇所>

## Section 2: A Partnership Approach to the DESD

- ・ Principles for Developing Partnerships
  - ・ Demonstration activities
  - ・ Networking
- ・ Monitoring

## 6 . 地球市民・地球民主主義とメディアリテラシーの導入

### <コメント>

多様な機関と団体、個人が協力しながら基礎教育と成人教育の双方において ESD を学習し、現在の「持続不可能性」の原因となっているものをとらえ直し、その問題解決に向けて、その学習成果をローカルアジェンダなどの地域政策や地域教育計画に具体的に反映させ、持続可能な社会の担い手となる地球市民として行動することを盛り込んで下さい。

また、その学習の過程で生まれた成果を多様なメディアへ自ら発信し、多くの人々と共有するプログラム (SD のためのメディアリテラシー) への支援を行って下さい。

小さき者の声を聞くという「地球民主主義」の確立こそが ESD を実体化していくことだと考えます。ESD は国民教育の枠で取り仕切られることなく、正しい意味でのグローバル教育であることを各国政府に認識させることが重要だと思えます。

### <ドラフトの主な関係箇所>

## Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Meeting Millennium Development Goals
- ・ The Four Domains of Education for Sustainable Development

## Section 2: A Partnership Approach to the DESD

- ・ Principles for Developing Partnerships
  - ・ Demonstration activities

## 7 . グローバリゼーションに対する注意

### <コメント>

グローバリゼーションの急速な台頭による雇用や産業や地域・文化の破壊・衰退は、SD

においても深刻な問題であることから、ESD においてもグローバル化に対する危機意識を持って取り組むことを促して下さい。

< ドラフトの主な関係箇所 >

Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Meeting Millennium Development Goals

8 . 先進国への注意

< コメント >

エネルギーや食糧の消費などの観点から見れば先進国の課題が大きいことを指摘して下さい。

< ドラフトの主な関係箇所 >

Section 1: Education for Sustainable Development

- ・ Key Themes in Education for Sustainable Development
- ・ Environmental Conservation and Protection
- ・ Sustainable Production and Consumption

9 . 評価と見直しのための国際会議の開催

< コメント >

DESD の中間年に中間評価と全体計画の見直しのための国際会議を、DESD の終了後に 10 年を総括評価する国際会議を開催することを盛り込んで下さい。

< ドラフトの主な関係箇所 >

Section 2: A Partnership Approach to the DESD

- ・ Monitoring

略語

SD=持続可能な開発

ESD=持続可能な開発のための教育

DESD=国連持続可能な開発のための教育の 10 年

ESD-J=「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議

EFA=万人のための教育

UNLD=国連識字の 10 年

MDG s =ミレニアム開発目標